RS ウイルス感染症予防接種（母子免疫ワクチン）を受ける方へ

○RS ウイルス感染症とは

RS ウイルス感染症は特に小児や高齢者に呼吸器症状を引き起こすウイルスで、1歳までに50%以上が、2歳までにほぼ100%の乳幼児が、少なくとも1度は感染するとされています。感染すると、2～8日の潜伏期間ののち、発熱、鼻汁、咳などの症状が数日続き、一部では気管支炎や肺炎などの下気道症状が出現します。初めて感染した乳幼児の約7割は軽症で数日のうちに軽快しますが、約3割では咳が悪化し、喘鳴（ゼーゼーと呼吸がしにくくなること）や呼吸困難、さらに細気管支炎の症状が出るなど重症化することがあります。

○接種対象となる方

接種時点で、**妊娠28週0日から36週6日**までの妊婦の方

※過去の妊娠時に組換え RS ウイルスワクチン（母子免疫ワクチン）を接種したことのある方も対象。

○母子免疫ワクチンとは

生まれたばかりの乳児は免疫の機能が未熟であり、自力で十分な量の抗体をつくることができないとされています。母子免疫ワクチンとは、妊婦が接種すると、母体内で作られた抗体が胎盤を通じて胎児に移行し、生まれた乳児が出生時から病原体に対する予防効果を得ることができるワクチンです。

○副反応

接種部位の痛み、頭痛、筋肉痛、発赤、発疹、蕁麻疹がみられることがありますが、通常2～3日のうちに治ります。また、重大な副反応として、ショックやアナフィラキシーが起こる可能性があります。

予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障がでるような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく保障を受けることができます（予防接種と健康被害との関係を国の審査会にて審議し予防接種によるものと認定された場合）。

〇予防接種をうけることができない方

① 明らかに発熱のある人（37．5度以上）。
② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人。
③ 過去にアブリスボワクチンに含まれる成分で、アナフィラキシーを起こしたことのある人。
④ その他、医師が不適当な状態と判断した場合。

〇予防接種を受けるに際し、医師と相談しなくてはならない人

① 今までに妊娠高血圧症候群と診断された方。
② 心臓血管系・腎臓・肝臓・血液などの基礎疾患のある方。
③ 予防接種で接種後2日以内に発熱のみられた方、全身性発疹などのアレルギーを疑う症状がみられた方。
④ このワクチンの成分に対して、アレルギーを起こすおそれのある方。
⑤ 過去にけいれんを起こしたことのある方。
⑥ 血小板が少ない方や出血しやすい方。
⑦ 過去に免疫不全と診断された方、近親者に先天性免疫不全症の方がいる方。

〇接種後とくに注意すべき点

① 予防接種を受けた後、30分位はその場で様子をみてください。体調に異常を感じた場合は速やかに医師に連絡してください。
② 接種部位は清潔に保つようにし、当日の激しい運動は控えるようにしてください。
③ 接種当日の入浴は問題ありませんが、接種した部分を強くこすらないようにしてください。

お問合せ先
健康福祉課健康増進係
TEL ： 57―4171